

第2回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

【日 時】平成27年10月5日（月） 午前9時30分～11時15分

【場 所】稲沢市役所政策審議室

【出席者】稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員（敬称略）

秀島栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
小森昌哉	共栄食品株式会社代表取締役
加藤鉄一郎	愛知県立稲沢高等学校教諭
森岡庸晃	稲沢金融懇話会幹事
鈴木 忠	連合愛知尾張南地域協議会稲沢地区連絡会議長
稲熊雅子	三工機器労働組合執行委員
田中里奈	公募
礪石秀幸	公募
服部勇希	公募
山田涼加	公募

〈事務局〉

大野紀明	市長
篠田智徳	市長公室長
足立直樹	企画政策課長
大口 伸	企画政策課主幹
吉川修司	企画政策課主査
新見 巧	企画政策課主任

【議事次第】

- 1 市長あいさつ
- 2 議事
 - (1) 人口ビジョン素案と総合戦略骨子案について
 - (2) アンケート結果（中間報告）について
 - (3) その他
- 3 市長公室長あいさつ

【会議の概要】

1 市長あいさつ

皆様おはようございます。大変お忙しい中、第2回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、本市が安心・安全・元気なまちづくりを行うにあたり、お力添えをいただきありがとうございます。

「まち・ひと・しごと創生」「地方創生」の名のもとに、それぞれの自治体が独自の施策展開をしていくこととなります。国の長期ビジョンにおいては人口減少に歯止めをかけて2060年に1億人程度の人口を確保すると記載されております。この1億人程度の人口を確保するための具体的な特効薬となる施策大綱を国は示しているわけではありません。本市におきましても、人口ビジョンや総合戦略を策定してから、現実に施策を展開するにあたり、非常に厳しいハードルを越えなければならぬと思っております。

それぞれの自治体で人口減少に歯止めをかけるといたしましても、日本全体でどうするかということになりますと、これは大きな課題です。市街地開発を行って隣の市から本市へ人口が転入しても、日本全体の人口は増えません。人口減少は確実に進んでおり、毎年、四日市市規模の20数万人の人口が減っています。人口減少に対する根本的な対策につきましては、それぞれの自治体が悩んでおります。

自然増減の要因である結婚・出産・子育てにつきましては、個人の意思によるものであり、行政がどうこうできるものではありませんが、誰しもいつまでも体を若い状態には保てません。結婚そして出産には適齢期があると思います。結婚・出産等の意思決定を少しでも早くということはどう皆様に意識していただくか、どのようにすれば結婚・出産・子育てをポジティブに考えていただけるのか、私も頭を悩ませております。また、平均寿命が女性は86歳、男性が80歳になりましたが、健康寿命は約70歳です。人の体は昔から42歳は曲がり角といいまして、どんどん人の体は衰えます。そのときにどうしていくか、高齢化が進む現在、大きな課題になっていますが、我々行政としても対策を打つ必要があります。

医療・福祉・教育・育児そして労働、各分野の環境を整えて総合的にマッチングさせないと人口減少に歯止めをかけることはできません。先ほど申し上げたとおり、人口減少問題については、行政だけでなんともできない個人の意思というものに左右されます。ここが難しいところでございます。いずれにしましても大変な時代になるということを皆が認識する必要があります。人口が減っていく時に「私は70歳だからもういいや」という話ではなく、20歳を過ぎたら皆がそのような意識になって、日本をどう守っていくのか、ひいては地域をどう守っていくのかということを実際に考えないといけません。経済界では今TPPで徹夜交渉してくれています

が、グローバル化社会の中でどうやって生き延びていくかということに加えて、そうしたローカル社会をどうするかという議論も必要だと思っております。

この会議の場だけでなく、職場や地域などあらゆる機会で「いま日本はこういう状況である」「人口が増えないと人を支えることはできない」ということを議論していただく必要があります。過去、国では移民の受け入れについても議論されていたようですが、そのようなことを踏まえながらも、まずは自国で支えあっていくことを第一に考えるべきではないかと思っております。

これから厳しい時代的背景のなかでどうやって子育てをしていくのか、悩みは皆あると思います。どのような生活スタイルを理想として子育て支援を進めていくかについては、皆様と意識や考え方をきちんと共有する中で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に落とし込んでまいります。私がいつも申し上げているのは、日本の人口を安定的にどう維持していくのかについては、国が方針を示していただかないと、自治体にやれと丸投げされてもできませんし、自治体間の競争で疲弊するだけになるのではないかということです。さらに、その財源はどこから出てくるのか。財源問題なくして人口問題なしということにつきましても、国に話をしてまいりたいと考えております。

人口ビジョン素案では非常に厳しい将来数値が出ております。これをどうしていくのかということは、今後我々も詰めていきたいと思っております。どうぞこれから短い時間ではございますが、皆様方からご意見をいただきながら、また、いただいたご意見にさらに肉付けをして人口ビジョンや総合戦略を策定していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 議事

(1) 人口ビジョン素案と総合戦略骨子案について

[会長]

それでは最初に、協議事項の「(1) 人口ビジョン素案と総合戦略骨子案について」、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

人口ビジョン素案と総合戦略骨子案について説明【資料1～4】

○質疑

[委員]

人口ビジョン素案につきましては、人口に関する現状、あるいは現状に基づく将

来予測について、事務局で調べて整理していただいたものです。そしてそれを踏まえた上で総合戦略骨子案としてまとまっているわけですが、課題が明るみに出て、それに対してどういった施策を打ったらよいのかという一つの案をお示しいただいていると思います。皆様の忌憚のないご意見をいただきたく思います。

[委員]

いくつか資料上の確認をしたいと思います。前回は質問させていただきましたが、この会議は日本人のみを対象に議論していくのでしょうか。今は日本人のみのデータ検証だと思うのですが、市長のあいさつにもありましたように、移民等もセットで考えていくのであれば、市内で他国籍の方がどういう状況かというデータや今後の考え方についてお聞かせください。

それから2点目ですが、転出超過の自治体に一宮市があることはなんとなく分かるのですが、愛西市がある理由について教えていただきたいと思います。北の方へ移転するのは自然災害の被害を避ける意味もあるかと思うのですが、むしろ津波が1 mぐらい来ると言われている愛西市の方に移っていかれるのは何か特別な理由があるのでしょうか。

それから卸売業・小売業などサービス業の雇用の場が市内に少ないとの説明でしたが、他の市町村もこういう傾向なののでしょうか。本市のみが限定的にサービス業の仕事場が市外に多い傾向にあるのかというのが3点目の質問です。

あと昼夜間人口比率について、既婚者と未婚者の女性の年齢別就業率に関する分析のコメントがあるのですが、単に雇用が不足しているだけではなく、もしかしたらお子さんに恵まれた方が離職をせざるをえない状況があるかもしれないと思います。そうした点も含めて雇用不足と考えているのかどうかをお聞きします。よろしくをお願いします。

[事務局]

4点ほどご質問いただきました。最初の外国人移民についてどう考えているかという点から説明いたします。国の長期ビジョンや総合戦略が出る前の段階では国も議論はしておりまして、例えば今の人口を維持するためには10万20万の移民が必要だといった議論があったのですが、今回特に国の方ではそうした議論はありません。確かに稲沢市にも外国人がかなりおりますので、どう考えるかは一つの課題ではあります。名古屋市の戦略会議を傍聴した際にも同じような質問があり、名古屋市も外国人が6万人とかなり多いものですから、外国人観光客やインバウンドといった観点だけではなく生活者としての外国人という捉え方が必要ではないか、とい

うことを委員の方がおっしゃっていました。名古屋市がどのような方針を定めるのかということ参考にしつつ、本市の外国人の問題については考えてまいりたいと思っており、今はその問題は保留の状態です。もう少しお時間をいただきたいと思います。

2点目の愛西市が転出超過である理由ですが、正直こちらも何故かは分かっておりません。後でアンケート結果の説明をいたしますが、今後アンケート回答の自治体別クロス集計を行う中で、何を求めてどこに転出するかを探っていけたらと思っています。今回は単純集計であり、そこまでの分析は行っておりませんので、こちらももう少しお時間をいただけたらと思っております。

次にサービス業の雇用の場について他都市がどうなのかというご質問ですが、まだそこまで分析を進めておりません。これも名古屋市の戦略会議を傍聴する中で聞いたことなのですが、愛知県は製造業が盛んなところですので、県全体で同じような傾向があるのではないかと考えております。今後色々な市の人口ビジョン等も出揃ってまいりますので、そうした資料も参考にしながら、ご提供できるものについてはしていきたいと考えております。

あと女性の就業状況につきましては、今回人口ビジョン素案 30 ページでお示していますが、20歳後半から下がってまた上がっていくといういわゆるM字曲線を描いています。一般論として結婚や出産によって離職をする傾向があるといった理由から、M字曲線を描くのは日本全国どこでも同じ傾向です。稲沢市は全国平均より低い状況です。雇用が不足しているという側面、子どもが生まれたから離職したというケースもあるかと思う一方で、これも名古屋の戦略会議で議論があったのですが、愛知県の一人当たりの県民所得は東京に次いで全国で2番目に高い数字になっており、夫婦共働きでいる必要性が比較的薄くて自ら望んで専業主婦になっている方も多いのではないかという意見がありました。一般論として女性が働ける社会というのは当然必要になってくるのですが、そういった理由の深堀りについても、もう少し必要かと考えております。

[市長]

移民をどう考えるかという質問ですが、日本の人口は減少する一方ですので、日本経済を維持する労働力の確保ということになると、今のままでは日本経済が立ち行かなくなることは目に見えています。日本企業の工場が海外進出されて、一時期産業の空洞化という問題がありましたが、それらのことを含めて国がどう考えるかによると思います。

今まさしく建設現場で労働者が足りなくなっており、OBの技術者が必要とされ

るというような問題も出てきているところです。企業が国内に生産拠点を置く、国内に重点的に雇用の場を設けるということになると、どうしても労働力として海外からの労働者を日本へ引き寄せないと企業が成り立っていかないというおかしな話になってしまいます。この問題はどちらかという国策の問題であり、本市がやりますという話にはならないと思います。

もう一つ合計特殊出生率の話がありましたが、稲沢市は1.4です。一方で、東京では人口が集中して20歳～39歳の女性が多いにも関わらず1.09です。人がたくさん集まっても人口が再生産されないという流れがあります。東京の出生率が1.4とか2.0になるとまた話は違ってくるかと思えます。

その点も頭の片隅に入れておいていただきたいと思います。

[事務局]

先ほどのご質問の回答の補足をさせていただきます。今回の将来人口推計は国勢調査を元にしております。居住実態に基づいた調査ですので、外国人は含まれております。実質的に、市内在住の外国人も議論の対象になると考えております。

また、女性の離職の件ですが、女性が離職をいたしますと市内在住となりますので昼夜間人口比率としては上がるということをつけ加えさせていただきます。

[委員]

製造業以外の雇用の場、特に女性が希望するサービス業の雇用の場が不足しているとの説明でした。サービス業以外でも女性が働く場はたくさんあると思いますが、その点についてはどう考えますか。

[事務局]

おっしゃる通り、製造業でも女性の働く場はありますし、例えば農業で6次産業化を進めることになれば女性の手も必要になってくると思います。デザインや流通の場でも雇用の場はあると思いますので、特にサービス業だけ増やせば良いといったことは考えておりません。

庁内の会議でも、「企業誘致のようにサービス業を誘致するのか」という質問を受けるのですが、製造業等のように市内に工場を作ってそこで操業をしてくださという話にはなりません。まち全体がある程度魅力的でなければサービス業の出店もありません。まちの魅力に惹かれて人がどんどん集まれば結局サービス業の方もそこに来ます。まちづくり全体で考えていかなければならないと思っております。人が沢山来て、そうした人をターゲットにした色々なサービス業が来て、そこで女性

の皆様も活躍できる職場ができてくると良いのではないかと考えております。

現時点では具体的にどのような職種で女性の雇用を確保するかということはお示しできませんが、今後色々な企業・団体にインタビューする中で、そうした部分も検討してまいりたいと考えております。

[委員]

2点ほど確認をしておきたいことがあります。人口減少対策については、出生率の向上と、社会移動即ち他市町村からの転入を促すという、大きく分けて二つの方向性があると思います。本市が地方公共団体として検討すべきことを考えますと、出生率を上げるという個人の考え方に関わるのところまで果たして市の施策で対応できるのかと感じています。どちらかという、社会移動の方が議論の主体になると思うのですが、そうした認識でよいかということをもまず1点確認させていただきたい。

2点目はこの戦略会議の目的についてです。人口シミュレーションのグラフを五つ列記していただいているのですが、この会議ではこのグラフのどれにするかを決めるのでしょうか。それとも、それはあくまで稲沢市の財政と政策によって判断する話であって、我々はそのシミュレーションのどれを選ぶかというよりは総合戦略の内容を主に議論するのでしょうか。

この2点を確認したいと思います。

[事務局]

2点目の質問からお答えします。このグラフのどれにしましょうかというところを預けるつもりは全くありません。あくまでも総合戦略の内容、本市がどのような施策を実施していくべきなのか、本市がどのようなまちづくりを目指すのか、そうした視点でご意見をいただきたいと考えます。事務局としては市をあげてどのような施策を実施していくかを総合戦略としてまとめます。ある程度の政策的な裏付けがあった上でどのような目標人口を設定するかは、こちらからお示しすべきだと思っております。その裏付けとなる施策について、「こういう事業を実施してはどうか」といったご意見をいただきたいというのが私どもの思いです。

第1点の質問では、本戦略会議は主に社会移動について議論するという認識でよいかということでしたが、人口が決まる要因は三つあり、出生、死亡、社会移動です。アンケートを取ると、独身者のうち9割が結婚したい、子どもを2人は持ちたいという結果が出ます。その希望が実現していないのは何らかの障壁があると考えられます。その障壁が何かということを探ってそれに対して施策を打つということ

は行政としてもやっていく必要があるのではないかと考えています。一地方自治体がどこまでやれるかはわかりません。企業の考え方や国の施策に因るところが大きいとは思いますが、一地方自治体としてできることはやっていく必要があると考えております。どれか一つだけに特化して議論するというよりは、両方考えていきたいということで認識いただければと思います。

[委員]

自然増減について、行政が個人の考え方を变えることはできませんが、例えば通勤をしやすくすると生活の余暇の時間が長くなるとか、そうした制約を取り除くことはできると思います。各自治体で考えることも大事ですが、本来は国が中心になって考えるべきことではないかという気もします。

ただし、先ほど市長が言われたように東京の合計特殊出生率が 1.09 と極端に低いことを考えると、地域的な要因もあるかもしれないので、本市ではどのような地域的要因があって今の出生率なのかは押さえておくべきではないかと思っています。

[委員]

妹が津島東高校に通っており、進路指導を受けた際の話を実日母から聞いたのですが、専業主婦になるには年収 600 万円要るそうです。先ほど本市では専業主婦になる女性が多いとおっしゃられていたのですが、本市では旦那さんに稼ぎがある人が多いから専業主婦になる人が多いのでしょうか。

[事務局]

先ほど本市では専業主婦を希望される方が多いのではないかという話をしましたが、裕福だから専業主婦が多いとまで言い切れるかどうかは分からないところがあります。名古屋市や県の総合戦略では、製造業が盛んな愛知県全体でそうした傾向があるのではないかということが言及されていますので、本市もそうした傾向があるかもしれないと、可能性の一つとしてお話しただけということはお承知おきください。

その上で、結婚・出産・子育てに関する市民の意識についてはまた後ほどアンケート結果をご説明いたしますので、改めてご議論いただければと思っております。

(2) アンケート結果 (中間報告) について

[会長]

次に移りたいと思います。協議事項「(2) アンケート結果 (中間報告) について」、

事務局から説明をお願いします。

=事務局=

アンケート結果（中間報告）について説明【資料5】

○質疑

[委員]

今まで稲沢市としては、総合計画に基づき住みやすいまちにしようと色々な施策を実施されてきていると思うのですが、こうして改めて色々な層に対して本市の印象を聞くと、今まではっきりしていなかったことが見えてくるのではないかと思います。

ご質問以外にも、できればこの結果は意外だったとか、委員の皆様の印象や感想も伺いたいと思います。

[委員]

アンケートの様々な設問及び結果から明らかに言えるのは、本市は立地条件が抜群に良いということではないかと思います。私も今国府宮に住んでいますが、近隣に住んでいる他府県から来られた方に話を聞きますと、名古屋まで10分で行けるところに一戸建てが建てられる立地条件の良さをおっしゃいます。これは他の市町村に比べてもかなり有利な点ではないかと思います。また、東京-名古屋間でリニアが開通しますと東京までおよそ1時間になりますが、これは都内で考えても田園調布あたりに住むのと変わらないことになります。名古屋駅がこれから開発の中心となってくると考えると、本市の役割というのは非常に大きいのではないかと思います。そうした点を考えると、本市内だけで全ての産業を揃えて仕事を用意することは無理ですので、本市における就労の場の創出だけでなく、名古屋圏におけるベッドタウンとしての役割についても両輪で進めていくことが必要なのではないかと思います。

[委員]

転入する方へのアンケート調査の中で、「転入するにあたり不安だったことは何ですか」という設問に「遊べるスポットが少ない」「生活が不便になる」「医療・福祉サービス」といった回答が挙げられていますが、私たち若い世代からすればカラオケもボウリングもあるし、少し車で行けば高速道路も名古屋高速、名神、名阪、東名のインターチェンジが全部あるので、ちょっと旅行に行くにも便利だと思いま

す。そうした点をちゃんとPRできたら良いと思います。医療サービスに関しては稲沢市民病院が新しくなりましたが、福祉サービスという点で、私の祖母が福祉施設に入るのに300人待ちと聞いていますので、そうした点は充実させていただきたいと思います。

また、若者の進路選択等に関するアンケート調査の中で、「稲沢市に住むにあたり、悪いと思うところは何ですか」という設問に対する「駅前に賑わいが無い」「魅力的な就職先が少ない」という回答は私も共感します。国府宮駅近くの商店街に有名な和菓子屋さんがあることは知っているのですが、それ以外は寂れている印象があります。「魅力的な就職先が少ない」という回答については、就職先を知らないという側面が大きいのではないのでしょうか。豊田合成や三菱エレベーター以外に、本市にどのような企業があるのかをPRできたら良いのではないかと思います。

[委員]

今、若者が市内の就職先を知らないのではないかという意見がありました。息子が岐阜県の高校に通っているのですが、UIJターン就職の勧めというタイトルで岐阜県の色々な企業の説明や案内が掲載されたパンフレットが学校で配布されました。インターンシップやセミナーについても詳しく説明されています。岐阜県が発行しているものだと思うのですが、このような取組みは愛知県でも行われているのでしょうか。

[委員]

県でなくても商工会議所等で実施していそうな気がします。

[事務局]

そうした取組みを行っている自治体もあると聞き及んでおりますが、愛知県においては実施されていないのではないかと考えております。その点につきましても今後色々と調査するとともに、本市としても参考にさせていただきたいと考えております。

[委員]

本市で同様の取組みを行うのは大変でしょうか。

[事務局]

他自治体を参考にさせていただいた上で、UIJターンそれぞれ市としてどのよ

うな対応をするかは検討させていただきたいと考えております。

[委員]

若者の進路選択等に関するアンケート調査ですが、今回の調査対象である高校2年生や大学2年生の学齢だけではなく、もう一步踏み込んで、就職にもうすぐ関わる18歳や21歳の方がより関心が深いと思うので、もっと現実に近いアンケート結果が出ると思います。時間があればやってみてはいかがでしょうか。

[事務局]

調査対象を高校2年生と大学2年生という学齢に決める時に議論したのですが、高校3年生ですと受験で忙しく、アンケートを送っても回答してもらえないのではないかと危惧しました。大学2年生の学齢を対象としたのは、短大の方もいらっしゃいますので、大学の卒業年齢だけに限ってしまうのはいかなものかと考えたからです。おっしゃる通り、進路選択に最も近い方々に聞くことができれば一番リアルな話が聞けると思うのですが、今回はお宅にアンケート用紙を送って郵便で回答を返送していただく郵送法という手法を用いております。忙しい時期に送って回収率が極端に下がってもいけないということで、調査対象年齢を決めた経緯があります。

例えば新成人代表の方々と市長が語る会等もありますので、様々な機会を捉えてそうした世代の意見も拾ってまいりたいと考えております。

[委員]

実際に就職した方の意見も聞くと良いかもしれません。

[委員]

私は今21歳で大学3年生です。今から就活という時期になります。名古屋の大学に通っていますが、友人はこの辺りの子が多いので聞いてみますと、先ほど意見があった通り、確かに本市にどのような企業があるといった話は全然聞きません。豊田市や名古屋市などにある大きい企業の話はよく聞きます。PRという点では、もう少し市でも考えていただくと良いのではないかと思います。私もそうなのですが、皆が今インターンシップ先を一生懸命探しており、情報が非常に求められている状況です。どんどん情報を出せば本市のことを分かってくれて皆が来てくれると思うので、情報を出すこと、PRすることは大事ではないかと思います。

また、「名古屋から10分」ということが、前回や今回の会議でも言及され、色々

なところにも書いてあります。確かにそうなのですが、私は祖父江に住んでいます。祖父江は名古屋から 50 分くらいかかります。名古屋の大学に入る時、名古屋に一人暮らしすることも考えました。若者は都市圏に憧れ、名古屋に近いところに住みたい、遊びたいという思いが強いので、若者が本市からある程度出て行ってしまうのは仕方がないと思います。ただし、私も就職時には地元から出ることも考えているのですが、子育てや老後のことを考えると、住み慣れたまちで子どもを育てたい、親に協力してもらって子育てしたいという気持ちがありますので、いつかは戻ってきたいと強く考えています。田園地帯だからこそ、都市には無い良いところもあると思うので、そういう魅力もどんどん発信していけるようなまちにしていけたらと思います。

[委員]

この地域から出て行かれるのですか。

[委員]

私自身興味があってやりたいと思う仕事に就くには、この地域から出ていかざるをえないと考えています。

[委員]

仕事柄ちょうど今、生徒の就職や進学に関わっている時期なのですが、生徒と話していて気が付くのは、生徒は意外と地元の会社を知らないということです。私は進路担当になって2年目なのですが、恥ずかしながら私自身も求人票を見て事業者の方とお話しさせていただく中で、「ああ、凄い企業だな」と思うことが結構あります。私以上に生徒は知りませんし、生徒だけではなくて保護者の方も地元の企業をご存じないようです。地元で堅実に実績を上げている会社を生徒に紹介するのですが、生徒は「一度家に帰って相談してきます」と言います。高校生だと保護者の意見の影響が大きいのですが、保護者から「この会社ってどういう会社？聞いたことがない」と言われてしまうと、生徒も意欲をなくしてしまいがちです。「良い会社なのになあ」と思うことが結構あります。色々な事業者のPRを行う場というのは重要だと思います。

農業についても同じことが言えます。私は農業高校の教員として農業にも関わっています。農業生産というのは絶対に必要なものですが、市内に休耕地・遊休地が結構あります。それらを有効に活用していけば地元で働く場というのは創出できるのではないかと思います。ただし、漫然とやっていたのでは収入にはならないので、

やり方次第だと思います。

地元における職業、働く場ということを考えていくと、本市は植木のまちですが、それ以外にも農業生産をもう一度見直す必要があります。若い人も年配の方でも、ちょっとした農地で物を作ることができて、それを売る場があって、お小遣い程度でも収入があったりすると生きる励みになると思います。そうした場があると、若い人だけではなく年寄りも元気になる、年寄りが元気になるとまち自体ももっと元気になるのではないかと思います。

名前と写真入りでどなたが作ったか顔が見える農産物がアピタ等で販売されているように、例えば路端で無人販売等がありますが、そうした持ち込みシステム等を充実するなど、安心・安全という意味で、農業分野で何か出来る事があれば、本市ももっと元気になっていけるのではないのでしょうか。地産地消で、地元でできたものを安心・安全に食べられるという方向性でいけば、農業も地元の産業活性化に役立つのではないかと、現場にいて感じます。

(3) その他

[会長]

次に、協議事項の(3)「その他」について、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

ワークショップ開催案内【資料6】及び次回の本会議日程等について説明

○質疑

[会長]

全体を通じて何かご意見やご質問等がありますでしょうか。

[委員]

勤労者の立場でご意見を申し上げたいと思います。

色々な市町村でこのような会議や議論に関わっていると、企業誘致という言葉が頻出するのですが、私が属している自動車産業を中心にお話しさせていただきますと、国内で製造業の復活というのは難しい状況ですし、今後も明るい話が残念ながらありません。

今日もお話がありましたように、一つ目の要因が労務費です。日本人は20万円ほどの賃金をいただいているのですが、中国やインドでは月1万円ほどの賃金で良い仕事をしますので、製造単価を安くするためにどうしても企業は海外へ出ていきます。

あるいは日本で物を作る場合については、移民で安い労務費の方を採用して安く物を作らないと、消費者の立場からすれば「もっと値段を安くしろ」というデフレ経済ですので、製造の立場からは新しく国内、例えば西尾張地方で工業用地を増やすという状況にはなりにくいと思います。

東日本大震災のような災害が発生しますと、この地域は浸水するリスク、あるいは液状化現象で土地が不安定になるリスクもあって、これから新しい会社あるいは製造を始めようかという方については、もう少し北の方とか地盤の強い所での操業を優先的に考えます。「新たな企業誘致を進める」との文言が総合戦略骨子案にあるのですが、長いスパンでみるとそうした懸念もあることを申し上げたいと思います。あまり期待が大きくなり膨らんでいくといけないと思いました。トヨタなどでは、1時間ラインが停まると多額の賠償金が発生しますので、なるべくリスクのないところで工場を作っていく傾向にあることを申し上げさせていただきました。

最後に、他の委員も要望されておりましたように、出生率を上げて国全体の人口減少に歯止めをかけるという議論と、他の市町村と人を取り合うという二つのステージの議論であると思うのですが、それは切り分けて考える方が分かりやすいのではないのでしょうか。前者は稲沢市がどれだけ頑張っても難しい領域だと思えます。その点を一度ご検討ください。

[会長]

貴重なご意見ありがとうございました。これをもって本日の協議は終わりたいと思います。委員の皆様につきましては活発な議論をありがとうございました。

それでは事務局にお返しします。

[事務局]

長時間にわたってご議論賜わり誠にありがとうございました。委員の皆様からいただきましたご質問でお答えできなかった点につきましては、また改めて回答させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは最後に、市長公室長からあいさつ申し上げます。

3 市長公室長あいさつ

週明けの月曜日の午前中ということで、お出かけにくい時間だったと思いますが、お集まりいただきましてありがとうございました。今回お示ししました人口ビジョン素案及び総合戦略骨子案につきましては、皆様からいただいたご意見をもとに内部で再検討させていただき、本年度中に策定をまいります。

本日時間の都合上、雑駁な説明になったかもしれませんが、また資料をお読みいただいております。お気づきの点等ございましたら、事務局までお伝えいただければと思います。今後とも忌憚の無いご意見をいただければと思っております。

本日はどうもありがとうございました。